

# 「部落差別は自分と関係ないこと？」

—Kさんの生き方に学ぶ学習を通して—

○気づき ○知識・理解 ○意欲・態度 中学校2学年

## 1 題材設定の趣旨

部落差別は「自分とは関係がない」「昔のことだ」と考える生徒が、被差別体験談を地域の人から直接聞くことで、差別を身近なものとしてとらえ、部落差別をなくそうという意欲や態度を育てる。

## 2 ねらい

- ・被差別部落の方から、直接体験談を聞くことで、部落差別の厳しさを認識する。
- ・文字を獲得し、免許証を取得することで、人間としての誇りを取り戻していくKさんの生き方に共感する。
- ・地域にある部落差別をなくす活動を知り、自発的な関わりがもてる。  
(町の「部落差別をなくす町民集会」への参加)

## 3 指導計画(2年 11月同和教育月間指導計画)

時	学習内容	活動内容	評価
1	「夕やけがうつくしい」 (北代 色作) 改定前「あけぼの」 P4~5	「夕やけがうつくしい」を読み、差別により文字を奪われ、恋人まで奪われた北代色さんが、識字学級で文字を獲得して「夕やけが美しく」見えた理由、「十年長生きしたい」と思った理由を考える。 ○識字学級について理解する。	北代さんの思いを朗読に表す。
2	「袋の中の免許証」 (自作資料) 資料P55~	「袋の中の免許証」を読み、身近なところに北代さんのような生き方をしている人がいることを知るとともに、Kさんに共感するところを明らかにする。	Kさんの生き方の理解。
3	Kさん夫妻の話	Kさん夫妻の話を聞き、部落差別の現実(文字を奪い、生活を奪い、人間としての誇りを奪う)を知る。部落差別の現実を自らの努力と周囲の人の協力によってのりこえてきたKさんの生き方に学ぶ。	Kさん夫妻の生き方への共感。
4	学習の振り返り	学習を振り返り、自分自身を見直すために作文を書き、学習をふり返る。	学習を振り返り感想を作文に表現。

## 4 具体的な活動内容(実践事例)

A 題材名 「部落差別は身近にあるんだ」

B ねらい

T生は家庭環境から課題を抱えていた。時々その腹立たしさから友だちに暴力をふ

ることがあるが、担任に自分の苛立ちを素直に語ることもできる。特に道徳や同和教育といった授業では、はすに構えたり、机に伏したりする姿が目立った。

R生は小学校から同和教育の時間に、資料を通して差別の勉強をしてきたが、授業以外では身近に差別があることを聞かないので「差別って身近で起こってるの」(R生1学期同和教育月間感想の一部抜粋)という気持ちをもっている。

このような生徒が、Kさんの生き方に触れることを通して、自分のあり方や生き方を問い直したり、部落差別が身近な問題であることを実感したりしながら部落差別をなくそうとする意欲や態度をもつことができる。

### C 指導上の留意点

- 授業前及び授業後の講師との人間関係を大切にする。
  - 授業協力を依頼する時、学習に対する授業者の考え方や、これまでの授業の経過、その中での生徒の育ちとつまずきを説明する。
- 講師と生徒との出会いの場を工夫する。
- 教師と対談する形態を取り入れKさん夫妻を講師にするなど、講師の話を、生徒が整理しやすいように工夫する。
- 学習の積み上げ、意識の変化を教師と生徒本人が確認するために個人ファイルを用意し、資料や感想等を年間を通じて累積する。(ポートフォリオ評価)

### D 実践記録 【第2.3時】

時間	生徒の活動	T生の様子	教師の発問
は じ め 15'	<p>「部活で自分だけでできなくてイライラして相手に冷たくあたってしまった。」</p> <p>「国語のリレー読みで読めなくて悔しかった。」</p> <p>「数学で解けない時。」</p> <p>「(手の障害で)まっすぐ線が引けない。」</p> <p>「何だ。」</p> <p>「何が入っているんだ。」</p> <p>「免許証だ。」</p> <p>体を横に向け、ぼんやり。免許証を取り出す瞬間、教師の方を見て、免許証だとわかると再び下を向いてぼんやり。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「自分が『だめだなあ』とかうまくいなくてイライラしたっていう経験ってないかな」と問う。</li> <li>• バックから袋を取り出し中に入っている免許証を生徒に見せる。</li> <li>• 「今日はこの勉強をします」資料を配付し、教師が読む。</li> </ul>
	<p>「文字を知らなくて免許が取れないから。」</p> <p>「遠距離の仕事ができない。」</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「Kさんがイライラしていたのはなぜ」と質問しさらに「免許がないとどんなことに困るの。」とKさんの心情にせまる発問をする。</li> </ul>

な  
か

「仕事ができないから収入が減る。」

後ろの生徒に何か話しかけるが  
すぐ元の姿に。

「人が自分を見る目に耐えられない。」

「人の目を気にしてしまう。」

「本当は勉強したいんだと思う。だけ  
ど、みんな字を知っていて自分だけ知  
らないことがつらい。」

「識字学級の人や奥さんに同情されたく  
ない。」

「奥さんは字が書けるから自分の気持  
ちはわからない。」

首を振ったり、体を揺する。落  
ち着かない態度。

「字を書いてやるぞという気持ち。」

「頑張るぞという気持ち。人の目を気  
にしないでいいし、自分らしく自分だ  
けで頑張れる。」

「やり始めてみて、頑張りたいという  
気持ちになった。自分にわからせたい  
という気持ち。」

「自分が悔しかったんだと思う。」

机に伏している。

顔を上げる。

- じっと耳を傾ける。
- Yさんの涙に自分も涙ぐむ生徒も。

- 「識字学級への参加を促す奥さんに『行きたくねえんだ。ほっといてくれ』ときっとにらみ怒鳴りつけた時のKさんはどんな気持ちだったかなあ」と問う。

- 「奥さんの同情って」何だろう。

「Eさんも部活でうまくいかなかったとき『私の気持ちはわかんない』って思ったのかな」と問う。

- 「識字学級で鉛筆が折れたり、汗びっしょりになったりするほど勉強したのはなぜだろう。」と問う。

- 「当時のことをKさんと奥さんに聞いてみよう」とKさん夫妻を招き入れる。

- 授業者とKさん夫妻の対談。

	<p>最初は机に伏していたが、その後、足を組み、やや斜に構えた姿勢ながら顔を上げてKさん夫妻の話を聞いている。</p>	
お わ り 20'	<p>「感謝の気持ちだと思う。」</p>	<p>・「Kさんはどうして免許証を袋の中に入れていたんだろう」</p> <p>Kさんは「その通りです。」と言い、「自分一人の免許じゃない。みんなに協力してもらって取った免許だから」と答える。</p> <p>「感想をお二人に手紙を書こう。」</p>

## 5 評 価

### 〈授業後の生徒の感想より〉

(T生) 今日、Kさんという人の話を聞いた。差別で文字が勉強できなくて免許証がとれず、困ったらしい。それでイライラして奥さんと喧嘩したらしい。Kさんや奥さんの話を聞いて自分となんとなく似ていることもあった。ストレスがたまって殴ったりしてしまうところだ。自分も思い通りにならないでストレスがたまると人を殴ったりする。Kさんは識字学級で文字を勉強して免許を取ったら変わったらしい。人間変わるもんなんだと思った。いい話がきけたような気がする。

T生は授業の翌月に行われた「部落差別をなくす町民集会」の識字学級をテーマにした劇に学級の友だちと一緒に自発的に参加した。

(R生) 今日の同和教育は感動だ。今まで小学校からずっと同和教育はやってきた。部落差別について先生の話やビデオ、劇とかで部落差別のことは見たり、聞いたりしたけど、決して実際見たりしたわけじゃないので深く考えることができなかった。確かに授業中にこういう話を聞いて「ひどい」とか「差別はいけない」とか考えても、しばらくするとすぐ忘れてしまう。だから、本当のことを言うとわからなかった。差別はいけないと思うけれど、一言で言うと嘘になる。でも、今日、KさんやYさんの話を聞いて、自分たちの身近なところに差別があったんだ。でも、負けないで克服してきた人がいるんだって実感した。何よりKさんYさんの涙。本当に悔しかった思いをしたぶん、免許をとれたうれしさや支えてくれた人への感謝ももっとでてきたんだろう。Yさんの最後の話、よくわからないところもあったけど一番心に響いた。

「部落差別をやめろ」と、している人に言いたいけど言えない。けど、せめて私はしない、したくない。そんな気持ちを今日はもてた。

## 6 成果と課題

### 【成果】

- ・地域から講師を招いたことで、生徒が同和問題に共感的な理解をすることができた。
- ・K夫妻を講師にしたことで、話に生徒がより共感できた。
- ・社会科の指導との関連を大切にすることで、知的理解、心情的理解が深まった。
- ・授業に続いて、「部落差別をなくす町民集会」があり、識字学級をテーマにした劇を生徒会の解放委員と学級の有志の生徒で上演する機会を設定した。このことが、生徒の部落差別をなくす意欲と態度を高めることにつながった。学習と活動を関係づけた単元設定がよかった。
- ・本単元のねらいは前述した通りであるが、T生の生活上の課題と結びつく題材設定をすることで共感的な学びができた。特に「生き方」への共感をもてたことが、同和問題を学ぶのではなく、同和問題から学び、結果として部落差別をなくすための自発的な行動（町民集会への参加）につながった。

### 【課題】

- ・講師の話の内容が豊かで、生徒がそれを聞くだけになっている。生徒どうしの意見交換や講師と生徒との対談等、生徒の学習への参加の時間を設定することも必要である。その場合、時間配分を綿密に計画したい。
- ・差別をなくそうとする地域住民の願いと行動へ共感させるため、Kさん夫妻だけではなく、Kさん夫妻を支えた地域住民にもスポットをあてたい。
- ・どのような講師と出会うかが重要である。被差別部落に入って地域の方と語り合う機会を大切にしたい。

